

山口県立

# 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

## 半導体PET/CT稼働



2023.6 Vol.52

① 須藤副院長挨拶 副院長就任のご挨拶 ② ③ ④ 特集 半導体PET/CT稼働 ⑤ 看護部通信 新型コロナウイルスと戦ったこの1年  
⑥ 地域医療連携ニュース 脳卒中相談窓口の設置について / 院長だより ⑦ インフォメーション 経営陣 新体制 / 消化器内視鏡  
内科の開設について / 肝臓内科の開設について、県民公開講座開催予定、編集後記

外来診察担当医表(別紙)

## 就任のご挨拶

### 副院長 須藤隆一郎

4月1日付で副院長を拝命いたしました須藤隆一郎です。皆様よろしくお願ひ致します。

私は、長崎県佐世保市の出身です。現在のハウステンボスの敷地にあった病院で生まれ、今でもハウステンボスで花火が上がると音が聞こえるくらいの場所に実家があります。大学は大分医科大学を昭和61年に卒業し、長崎大学第2外科に入局致しました。その後3年間は真面目に臨床をしましたが、一時の気の迷いから基礎医学の腫瘍医学の大学院に入学し研究三昧の日々を過ごし、卒業後も大学院の先輩の甘い誘いに乗ってそのまま基礎研究で米国に留学し2年間過ごしてしまいました。がん免疫の研究を行い最終的に一流雑誌に論文を発表できましたが、一生基礎で生きていくだけの頭脳がないことを痛感し、やはり外科医にもどろうと改心しました。結局何もできない10年目の外科医として当時の山口県立中央病院赴任となりました。その当時は大学の先輩である本郷院長、中安先生、黒田先生に指導していただきました。何も出来ず、多大なご迷惑をかけましたが2年間でかなりの症例を経験させていただきました。その後3年間大学の上部消化管グループで勉強させていただき2001年4月に再び当院に戻り今年で22年目となる次第です。要するに私の外科はほぼ当院で出来上がっているわけです。今後は、外科医として何とか一人前にしていただいたご恩を副院長として少しでも返していければと思っております。

また、数年前より防府医師会の理事も勤めさせていただいており、当院と医師会との橋渡しも私の大きな役目であると自覚しております。山本一成防府医師会長をはじめとした医師会の先生方と綿密な連携をとりスムーズな医療連携を築くことが出来るように頑張っていきたいと思っております。

医療の現場は、未だおさまらないコロナ感染症、働き方改革、病診連携、救急医療など課題が山積みの状況と思われま。皆様の助けをお借りしながら当院の基本理念である「県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する」ために努力していきますので今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

### Profile (プロフィール)

1961年佐世保市の生まれ、佐世保南高校より大分医科大学に進学。卒後は消化器外科の長崎大学第2外科に入局。長崎大学附属病院、琉球大学附属病院、国立療養所村山病院で研修。1989年長崎大学大学院に入学し腫瘍医学教室で腫瘍免疫について研究。1993年よりCancer research institute postdoctoral fellowとして米国Fordham大学に2年間留学。帰国後平戸市立南部病院、萩胃腸科外科病院を経て1996年山口県立中央病院勤務。1998年より長崎大学第2外科を経て2001年より当院勤務。趣味は、家を建てたのをきっかけにガーデニングにはまり、バラなどの花木を中心に休日はせつせと世話をしている。

## 特集 | 半導体PET/CT稼働

### ▶山口県内で唯一の半導体PET/CT稼働 (2023年4月1日時点)

PET/CTとは、がん細胞が正常の細胞よりも多くのブドウ糖を取り込む性質を利用して、放射線薬剤FDGを体内に投与したのち特殊なカメラで撮影するPETと臓器のかたちを画像化するCTを組み合わせた検査です。特に、今回導入された半導体PET/CTは従来のPET/CTの約2倍の感度を誇る最新鋭装置で、さらなる画質の向上及び検査時間の短縮・被ばく線量の減少が実現しています。

ただし、PET/CTは5mm以下の小さながん病巣の組織は発見できない・炎症を起こしている部分はがんとの区別が難しいなど、不得意とする分野もあります。

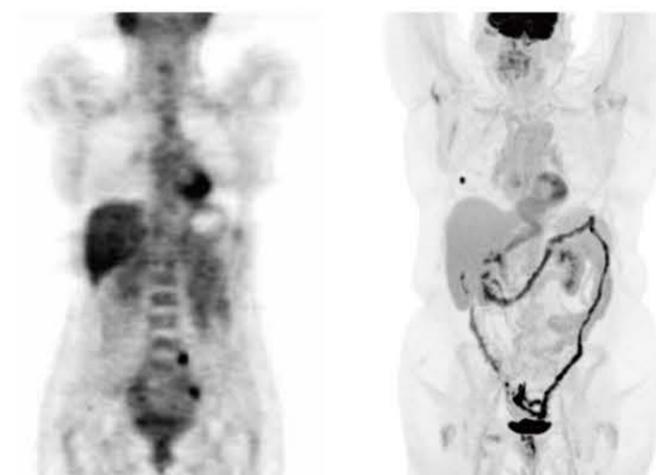


※2023年4月より院内症例での検査を開始しております。

※他医療機関からの紹介は2023年10月頃を予定しています。

### ▶半導体PET/CTの特長

- ◎一度の撮影で、全身の検査ができる
- ◎画質がよい(従来PET/CTの約2倍)
- ◎検査時間が短い(検査時間：約15分)
  - ※受付～終了までは計2～3時間
  - ※状況に応じて所要時間は異なる
- ◎効率よくガンマ線を画像化できることにより使用する薬剤の量を減らすことができるため、従来よりも被ばく線量が少ない
- ◎呼吸同期による撮像が可能のため、呼吸による影響を受けやすい肺や横隔膜直下などの病変も安静呼吸で検出が可能



従来装置

新型装置

※画像提供：シーメンスヘルスケア株式会社

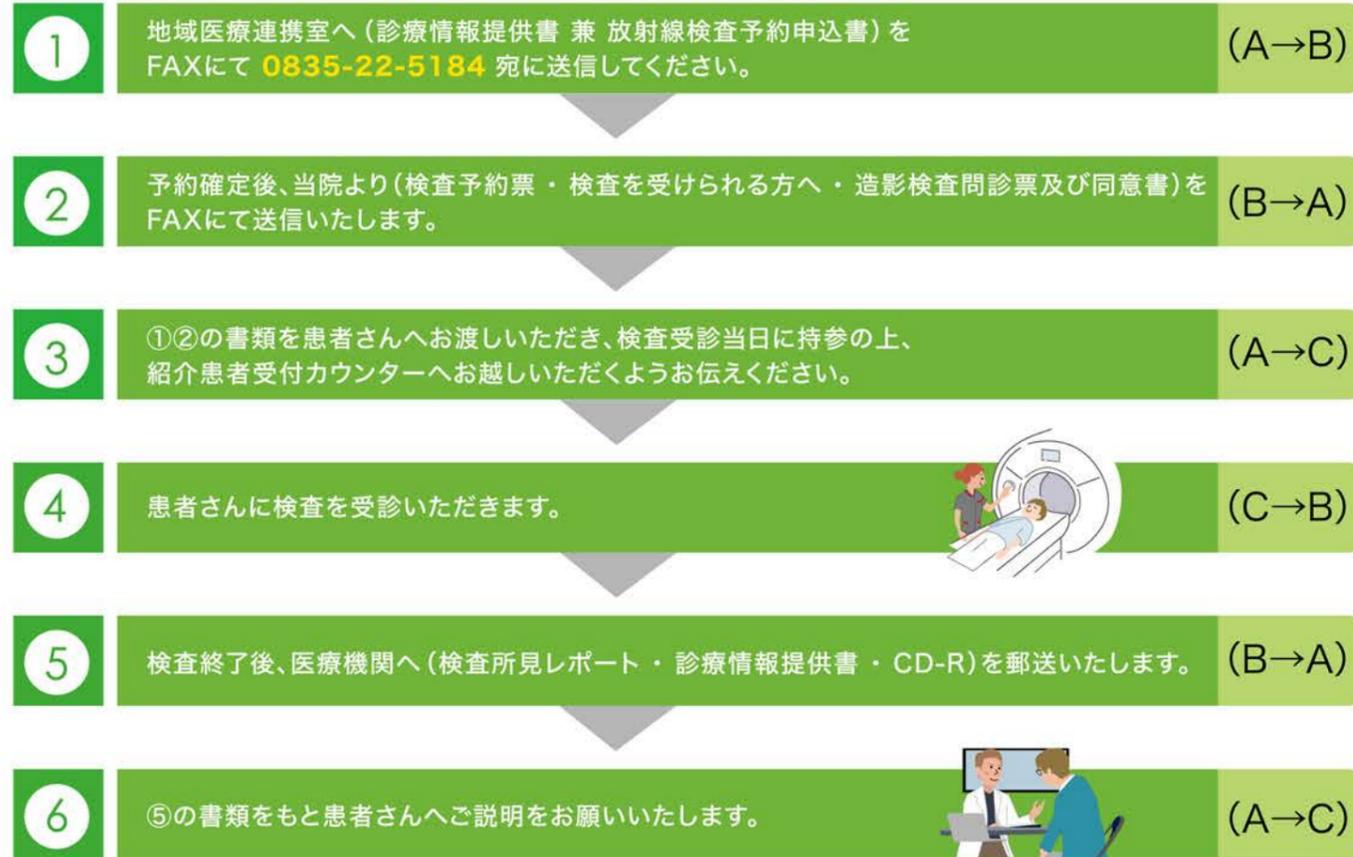
解像度の向上により検査画像の画質が向上

新機種は、解像度の向上でより細かなものが見えるようになり、これまでよりノイズを除去できるようになるため、検査画像の画質が向上します。

## ▶当院にて検査可能な主な対象疾患 1~3:5時間前から絶食が必要 4:18時間前から絶食が必要

1. 悪性腫瘍：他の検査や画像診断により病期診断、転移・再発の診断が確定できない場合 ※早期胃がんを除く
2. てんかん：難治性部分てんかんで外科切除が必要とされる場合
3. 大型血管炎：すでに大型血管炎と診断されており、かつ他の検査で病変の局在又は活動性の判断がつかない場合
4. 心疾患：心サルコイドーシスにおける炎症部分の診断が必要な場合

## ▶PET/CT検査のご紹介の流れ (A:医療機関 B:地域医療連携室 C:患者さん)

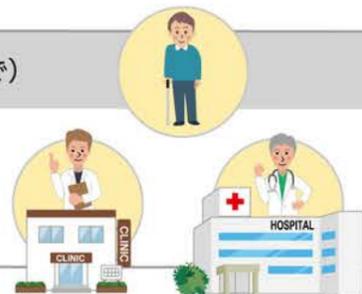


### ご紹介患者申込方法/お問合せ (受付時間: 8時30分~17時まで)

※検査日の変更依頼等は下記のFAX・電話番号までご連絡をお願いします。

◆FAX: 0835-22-5184 (前日までに送付ください)

◆電話: 0835-22-5355 (お急ぎの場合はこちらへご連絡ください)



A PET/CT撮影室



B 操作室



C 処置室(注射自動投与装置)



D 待機室

## ▶検査のご案内

### 絶食

検査前5時間の絶食 ※心サルコイドーシスは18時間絶食

検査前の運動や薬服用の制限

●運動: 検査前日と当日の運動は控えてください。

●糖尿病薬: 検査当日のお薬の服用あるいは注射は主治医にご相談ください。



### 検査の流れ、問診、血糖測定等の説明

当日は、検査の流れについて説明します。その後、問診や血糖測定等を行います。結果によっては検査ができない場合があります。



### 注射

検査薬(18F-FDG)を静脈に注射します。



### 安静

検査薬(18F-FDG)が全身に行きわたるまで待機室で約1時間安静にします。この間は読書、電話、パソコンなどをせずに過ごしてください。



### 撮影

排尿後、約15分かけて撮影を行います。終わりましたら待機室で安静にします。

※場合によっては時間をかけて2度目の撮影を行うことがあります。



### 放射線科診療部長

三浦 剛史 (みうら こうし)

日本医学放射線学会 放射線診断専門医  
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・指導医

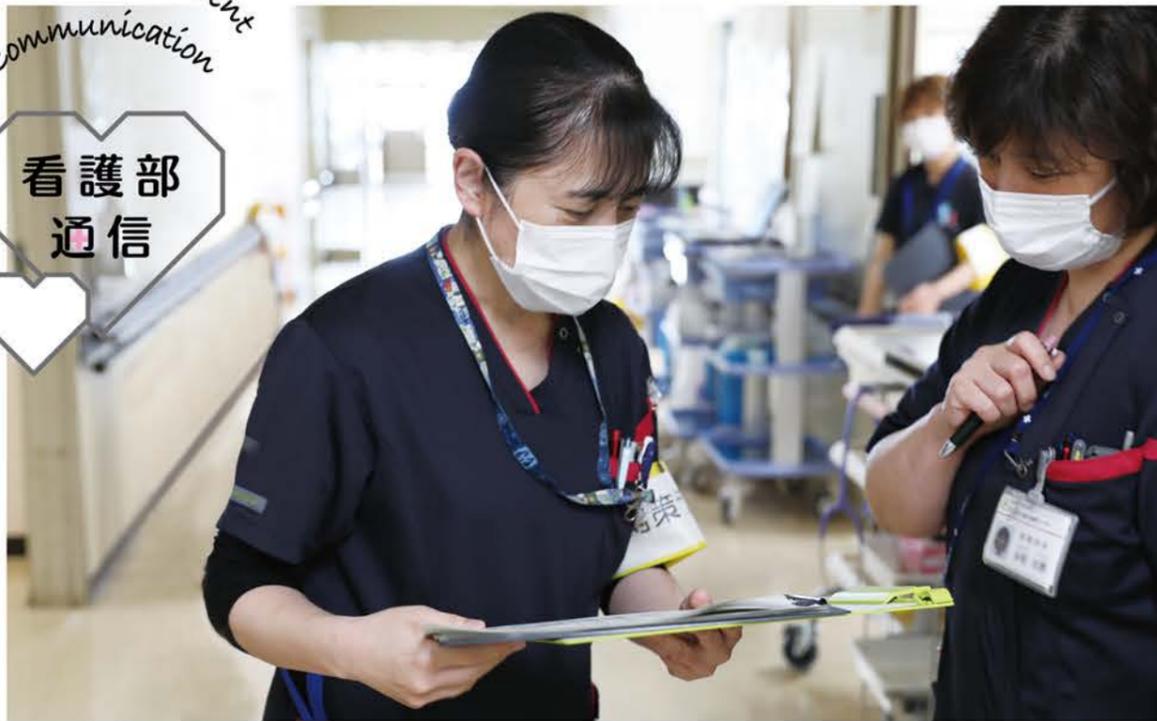
## Message ~メッセージ~

2023年3月より、当院に山口県で初となる半導体のPET/CTが導入されました。2023年10月を目途に地域の患者さんにもご利用いただけるよう院内での準備を進めております。

PET/CTは、低侵襲検査のため高齢の方や合併症を抱える方にも安全に検査を受けていただけます。最新のPET/CT装置を用いてより一層近隣の先生方の診療や地域の皆様の健康のお役に立てれば幸いです。

PET/CT検査に限らず、放射線診断・治療に関する困りごとはお気軽にご連絡ください。

看護部  
通信



## 新型コロナウイルスと戦ったこの1年

感染管理認定看護師 感染対策室主任

とう 黨 陽子



感染対策室の専従となり、2年目を迎えます。新型コロナウイルス感染症の第6波真ただ中でのスタートとなり、コロナとの戦いの1年でもありました。

感染管理認定看護師を目指したのは、部署の感染委員になったことがきっかけです。根拠を知ったうえで感染対策を進めていきたいと強く思い、この道を進むことになりました。認定学校で「パンデミック」という言葉を習いましたが、十数年後にパンデミックが発生し、自分が専従として対応することになるなど、その時には夢にも思いませんでした。この1年、「患者さん及びスタッフを感染から守る」ことを目標に、コロナ対応を中心に感染防止活動を行ってきました。院内でもクラスターが発生し、その対応に追われ自分の力不足を痛感したり、周囲のスタッフに助けられ感謝したりと、あっという間に1年が過ぎました。

私には、院内のあらゆる職種の方と協働して感染対策を進めていくという役割が与えられています。そのため、各部署へ感染の教育、そして情報収集を行い部署に即した感染対策の導入・改善を行っています。同時に、当院は第一種感染症指定医療機関として、地域の医療機関と連携を行い、地域全体の感染対策向上に努める役割もあります。今回のパンデミックを経験し、改めて地域の医療機関との連携の必要性について

考えさせられました。看護学校や消防学校への講義、連携を行っている施設へのラウンド・意見交換を今後も継続し、地域の感染対策が十分に機能するよう自身の役割を果たしていきたいと考えています。

普段からなるべく相談をしやすい雰囲気を作るよう心掛け、開かれた感染対策室を目指しています。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から5類へと移行しましたが、ウイルスがいなくなるわけでも感染性が低下したわけでもありません。今後も、「患者さん及びスタッフを感染から守る」この思いを持ち続けながら、感染対策活動に取り組んでまいります。



脳卒中療養相談士（医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなど）

## 脳卒中相談窓口の設置について

当院では、2020年10月から脳卒中センターを開設し、日本脳卒中学会が認定する一次脳卒中センターとして、24時間365日rt-PA 静注療法が可能な診療体制を提供してまいりました。

この度、更なる体制充実を図るため、「一次脳卒中センター(PSC)コア」認定を申請し、機械的血栓回収療法を24時間365日実施可能な体制を整備します。

これらの脳卒中診療体制充実に併せ、1階の患者支援連携センター内に脳卒中相談窓口を設置します。

脳卒中の診療は、発症時から順に「急性期」「回復期」「維持期(生活期)」の3つの期間に分けられます。これを急性期病院(高度急性期病院を含む)、回復期病院(回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟を持つ病院)、維持期の病院や診療所・施設等が、患者さんの病期や病態に応じて診療を分担し連携しています。

医療の進歩により、ほとんど後遺症がない状態まで回復されて家庭復帰・社会復帰される患者さんが増える一方で、再発を繰り返したり、後遺症が残ってしまう患者さんも多くいらっしゃいます。

そのような患者さんの様々な相談に対応するため、脳卒中相談窓口を設置し、日本脳卒中学会が主催する研修を受講した「脳卒中療養相談士」を4名配置しました。

相談をご希望の方は、1階の脳卒中相談窓口までお越しいただくか、下記の連絡先までご連絡をお願いいたします。

なお、相談内容によっては関係者と協議し、後日の回答とさせていただきます。



**お問合せ先 脳卒中相談窓口**  
(患者支援連携センター内)

◎TEL:0835-22-5145 ※月曜から金曜(祝日を除く)8時30分~17時15分  
◎FAX:0835-22-5745 ◎E-Mail:soudan@ymghp.jp

正面玄関入り、すぐ左手にあります。お気軽にお立ち寄りください。



## 院長 だより

若々しい緑色を呈する木々が目に映る季節となり、2023年度が始まりました。新しい院内サミット会議メンバーの顔ぶれが本誌面に掲載されています。病院の事業計画を俯瞰してみますと、①第4期中期計画のスタート、②地域がん診療連携拠点病院としての機能強化に向けたPET/CTの稼働、手術支援ロボット・ダヴィンチの導入、がんゲノム医療の推進、③医師の働き方改革に向けた本格的準備、④病院機能評価受審に向けた準備の開始、と盛り沢山の課題が待っています。院内サミット会議のメンバー諸士の才能を生かして、これらの諸事業を達成していく所存です。



武藤 正彦



## ○経営陣 新体制

令和5年4月の人事異動に伴い、経営陣の見直しを行いました。厳しい病院経営の舵取りが続く中、病院の機能強化を進めていく上でも、病院経営の改善が大前提になります。職員とチーム一丸となり、全力で取り組んでまいります。



院内サミット会議の風景



## ○消化器内視鏡内科の開設について(令和5年4月)

食道がん・胃がん・十二指腸がん・大腸がん等の早期発見に取り組むとともに、早期の胃がんや大腸がんの内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)など、先進的かつ低侵襲な治療を効果的に提供し、患者さんの健康維持に貢献することを目指しています。また、緊急性の消化管出血等に対しても救急部や他科と連携して、24時間365日盤石な体制で治療にあたっています。

## ○肝臓内科の開設について(令和5年4月)

山口県では、肝疾患診療体制の確保と診療の質向上を図るため、肝疾患診療連携拠点病院を核とする肝疾患診療ネットワークづくりに取り組んでおり、当院は、肝疾患専門医療機関に指定されています。また、日本肝臓学会認定施設(県内6施設のみ)に認定されており、難治性肝疾患(原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝硬変等)をはじめとした肝疾患診療における県内での中心的な役割を担っています。

### 令和5年度 県民公開講座 開催予定 受講料無料

開催日時	テーマ	出演	会場(集合型)
7月8日(土) 14:00~15:00	てんかん支援拠点病院における診療の現状	脳神経外科 長網 敏和 医師	当院救急棟 2階講義室
9月2日(土) 14:00~15:00	脂肪肝と栄養	肝臓内科 木村 輝昭 医師	当院2階 大会議室
10月21日(土) 14:00~15:00	放射線検査(半導体PET/CT導入)	放射線科 三浦 剛史 医師	
11月25日(土) 14:00~15:00	前立腺がんと手術支援ロボット(ダヴィンチ)	泌尿器科 松本 洋明 医師	

今年度の県民公開講座は、従来の集合型とweb参加型のハイブリッド式で開催予定です。

### 編集後記

**特** 集記事にもあったように、従来の機器と比較すると、従来に比べて短時間で高画質な画像が得られるようになったことにより、患者さんにも大きなメリットがあるようです。数十年前に人生で一度だけ、検査を受けたことがありますが、当時とは比較にならないくらい、素人が見ても画像の精度が上がっているように思えます。今回号が多くの方に検査を受けていただく契機となり、診断や病巣の早期発見につながれば幸いです。(総務課Y.N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター  
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地  
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210  
URL <https://www.ymghp.jp/>